

2008 年度 ブロック共同宣教司牧推進の歩み

「ブロック・小教区での部会制の現状と課題について」

ブロック名：奈良地区南部ブロック「4小教区各部会」

奈良地区南部ブロック事務局

纏め・古賀 淑郎

提出年月日：2009 年 4 月 20 日

① その実態と、感じる問題点

- ・ 小教区規約は出来上がったが、信徒全体には意識の浸透がなされていないように思われる。評議委員の役割を担っている者、各部会の担当者（代表者）はそれなりに理解されているようだがまだまだの感がある。
- ・ 役割を持ちたくないと思う思いが信徒の中にあるようだ。無関心や、自分が担当している以外の事については関わらないようなことも見受けられる。このような傾向は部会全体に見られる。
- ・ そのような中において典礼部会はブロック全体共通の認識を持ち司祭と共に話し合い「ミサ・祭儀」の正しい「ミサ」の進め方が行われている。
- ・

② 部会制が持つ課題

- ・ 一人一役の役割の充実を図り、信徒の参加を促す必要がある。
- ・ 「ミサ・祭儀」は特に重要であり、その為には小教区の典礼奉仕者の参加者を増員しなければならない。司祭の配属が充実すれば「集会祭儀」行わなくてもよいが現実には難しいこということは各自承知のはずであるが声をかけるも奉仕者が増えない。
- ・ 「みことばの祭儀」の重要性を理解して欲しい。「主日ミサ」がないからと云って参加をしないと云うこともある。

③ 現在の部会活動の問題点を解決していく方法

- ・ それぞれの小教区で「部会」開催日が設定されているようだが、より参加しやすい環境を考え開会方法を改善。
- ・ 会議ではブロック部会での討議内容の伝達や意見交換等を行う。
- ・ 教会行事の役割分担などの確認作業が必要。情報の共有化を図り、欠席者には議事録を配布し内容を理解して貰う。
- ・ 各自が共通認識を持つことで個人負担の軽減に努力する。

④ 部会制が目指している「共同体のみんなが教会の活動を担い福音宣教していく」という目標とは

- ・ 「共同宣教司牧」を推進するに当たって信徒一人ひとりが自分には何が出来、そのために何を学び、行動するのか考える必要がある。
- ・ それには機会あるごとに「お互いに分かち合う」思いがなければならない。分かち合う中で自分に出来る事のヒントを見つけ出す可能性が大ではなかろうか。
- ・ 無理なく奉仕できるような雰囲気作りも大切である。
- ・ 他の人がして呉れているからそれで良しとならないように連帯意識を高めることも必要である。

※ 財務部から、教会全体の問題として教会を維持、運営していく上で維持費、その他献金の増額が見込まれない中で建物、備品（祭具、その他）の老朽化が進み、一小教区では対応しかねる状況ともなっている。今後、どのように対処すべきか方向性を示してもらえないだろうか。との意見もありました。

※ 司祭より（奥村 豊神父）

「日常からミサを生きる」ことを考えたとき、信徒の生活の一日一日が福音宣教の時と理解している。この宣教の原動力がミサであり、このミサを支えるのは共同宣教司牧組織である。

しかるに、この組織が集団維持機能のみを求めて、福音を理解すること、それを宣べ伝えることを忘れがちである。伝えるべきメッセージを持たない集団、自己保存のみを目的とするいやしい集団に一体どんな人たちが加わろうとするのだろうか。

ところで、信徒の皆様は 本当によく教会の運営のために奉仕されている。会議など今までほとんどしたこともない人が、今や会議依存症のように討論に打ち込んでいる。そして、5 分もあれば決まりそうな事柄に何時間も費やし、貴重な休日をいけにえとして奉献している。えらいと思う。できうるなら自分の体力、知力を越えて奉仕して下さっている人々の負担を多少なりと軽減してあげたいと正直思う。話し合えば全ていい結果が出る訳ではない。

責任を持たせて即決していった方が余計な時間を多くの人に支払わせるより、賢明な場合だっ
てあるだろう。そんな事より、キリストを伝えようぜという気になる。
わずかの預かりものを銀行にも預けず腐敗させてしまった徒に似た性格を今の教会に見る。

社会活動をしているから開かれた教会なのではない。
何をしていても、何をしていなくてもキリストを発信し続けているなら、それが教会である。
どんなに形が整のっているてもキリストを発信しない組織は教会ではない。